

ワカヤマソウリユウ編 ―有田川町の昔は海だった？―

有田川町の周辺は、中生代の白亜紀に、海底だった地層が広く分布しています。町内の各地で、貝やアンモナイト、サメやウミガメなど海の生き物の化石が多く発見されているのはそのためです。

有田川町は、古くから化石が多く発見される場所として有名で、既に明治時代から白亜紀の代表的な化石であるアンモナイトが産出する地域としてその名が知られていました。さらに昨年、非常に保存状態の良いモササウルス類であるワカヤマソウリユウの化石が公表され、一気に全国区の知名度を得ることになりました。



長谷川地区で見つかったアンモナイト
(発見者 岩本行弘さん)

●有田川町は、昔、海に沈んでいた？
ただ、今私たちがいるこの場所が、そのまま海に沈んでいたわけではありません。

有田川町周辺の白亜紀の地層（海成層）は、日本列島が形成された原因となる、地球のプレート（プレート）の動きによって南方から運ばれてきたものです。白亜紀には何千kmも南にあった地層が、一年にほんの数cmずつ移動や隆起を続けて、今この場所に位置しているのです。

例えば、年に5cmずつ隆起する場合、5000mの山ができるまでには100万年しかかかりません。人の人生のスケールではなかなかわかりにくいのですが、万や億の年単位で見ると、陸地や海岸線は絶えず変動し、世界地図も同じままであることはないのです。

●将来、有田川町周辺で恐竜は見つかる？

ワカヤマソウリユウはモササウルスという海の爬虫類で、恐竜ではないというお話を先月号に紹介しました。では、恐竜が有田川町で見つかる可能性はあるのでしょうか。

湯浅町と広川町からは、部分的な恐竜の化石が見つかっていることをご存じの方も多いかと思いますが、恐竜が見つかる地層は、一般的には河川や湖沼など、陸地に由来する地層です。有田川町にも、白亜紀の陸地の地層が一部あるようですので、もしかしたら恐竜の化石が見つかるかもしれません。